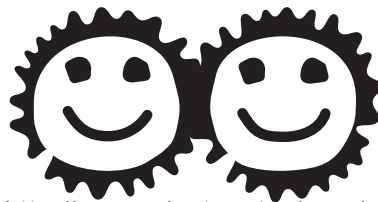


発行：2002年 3月 1日

NPO法人 みなとネット21

理事長 村上 雅昭

http://www.minatonet.min.gr.jp/
mail: minatonet@hotmail.com

第12回世界精神医学会が横浜で8月24から29日に開催されました。これはアジアでは初の開催であり日本精神神経学会10周年も同時に記念して開かれています。参加人数は世界11ヶ国、6229人程度、一般市民3千人程度にのぼり太平洋盛会でした。その中でみなとネット21の活動も「統合失調症のための最適治療プロジェクト」というシンポジウムの中で発表しました。このシンポジウムは地域・文化差を越えて最適な統合失調症の戦略を作り上げることを目的とした。

Optimal Treatment Project」という国際プロジェクトの成果という意味もありました発表は

1. 科学的根拠に基づいたアプローチによる精神障害の最適治療に関する国際研究 (Ian Falloon)
2. 精神障害の早期介入の基礎としての最適治療を実施する最の問題点と解決方法 (Robin Gadow: ニュー・ヨーク)
3. 「T11精神病院を閉鎖する際の治療水準維持とT11問題 (Antonio Mastroeni: 1917)
4. 統合失調症の最適治療に対する一般治療 (Mehmet Sungur: HK1)
5. 東京都西部における包括的メンタルヘルスケアの実施ーみなとネット21ー (村上雅昭)

の順番で実施され、当日は9時30分の早朝にもかかわらず、日本はもとより海外からも多数の参加がありました。時間の制約上、質問の時間は限られましたが終了したあとも各発表者を囲んで熱心な討論の輪が出来ていました。

世界精神医学会は29日に無事終了しましたが、参加できなかった方々にも同様のシンポジウムの開催が望まれ、みなとネット21、NPO法人メンタルヘルス協議会とヤンセンファーマ株式会社共催で8月30日に京王プラザホテルで「地域精神医療成功のキーワードは何か? 諸外国の経験に学ぶ」と題してワークショップが開催されました。また横浜大会の発表者に Joseph Ventura 先生 (アメリカ) も加わり、地域精神医学の発展に関して各国での経験が披露されました。合計13名を超える精神科診療所の医師はもとより、コメディカルスタッフや家族・当事者も出席され、熱心に話を聞きました。会の終了後の親睦会では、当事者・家族を交えて精神保健の専門家が交流する姿が非常に印象に残りました。(村上雅昭)

「精神分裂病」から「統合失調症」へ

2002年8月より「精神分裂病

(Schizophrenia) という呼称は「統合失調症」へ変更となりました。従来の「精神分裂病」という病名は否定的なイメージが強く、病気の受容や社会への復帰に支障があるという意見が多くありました。今後は障害者福祉手帳、傷害年金、通院公費負担制度などの公的な書類でも「統合失調症」が用いられます。

最近では薬などの医学的治療法、リハビリなどの社会復帰の進歩により、多くのケースで予後が改善されています。病気の正確な理解や周囲の方々からの協力を得ていく上でもより良い結果をもたらすと期待されています。

まだ変更もまもなく、具体的な半居は多くありませんが、患者さんからは将来に対して勇気や希望が湧いてきたとの超えが聞かれています。専門家からは患者さんとの病気や治療に関する自由で前向きな話し合いが出来るようになるとの期待が寄せられています。今回の変更が病気の治療と回復により良い影響をもたらすことを願って止みません。(茅野分)

お薬について知ろう!!

今回はリスペリドン(リスパダール)という薬をご紹介します。この駆使は統合失調症の治療に用いられる抗精神病薬のなかでも比較的によく用いられています。抗精神病薬は大きく分けると、主にドーパミン

という神経伝達物質が作用している部位に影響を与えて、幻覚や妄想などのいわゆる陽性症状を軽減する効果を有する「従来型の抗精神病薬」と、ドーパミンという神経伝達物質が作用している部位にも影響を与えずその結果、意欲が低下したり感情の起伏が少なくなったりするなどのいわゆる陰性症状も改善する可能性が高まるといわれている心気薬の「非定型抗精神病薬」があります。後者にリスペリドンは分類されます。この薬を服用すると脳の神経における情報伝達機能の障害は改善され、その結果症状である幻覚や妄想、感情の不安定などが軽くなります。さらに「従来型の抗精神病薬」で問題となっていた副作用であるパーキンソン症状(手のふるえや歩行のぎこちなさ、表情の変化の乏しさなど)が起る可能性が比較的に低くなるともいわれています。一般に副作用の可能性が低い薬ほど処方量を増やしやすく、よって本来の良い効果もより期待できるのですが、このことからリスペリドンのような特徴をもつ薬は(もちろん副作用の可能性はゼロではありませんが)服用による利益が比較的に高いといえるでしょう。また治療は症状の改善のみが目的ではありません。たとえ症状が改善したとしても副作用が残ったり、陰性症状などによって職場や学校、家庭などでの活動が不十分であったりする場合には、「社会的治癒」「社会復帰」は果たせません。今後の精神科の治療では症状のみではなく、副作用の出現にも留意し、さらに社会復帰にも商店をあて、「よりよい効果があり、副作用は少なく、飲み心地も良好で、社会復帰にも寄与する薬」について十分な検討をするべきと思われれます。(三浦勇太)